

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害政策総合研究事業）分担研究報告書
失語症の身体障害認定基準および障害福祉サービスへのニーズに関する研究

研究分担者 種村 純 川崎医療福祉大学 特任教授

研究要旨

失語症者のコミュニケーション能力、参加、環境因子、QOL、IADLについて検討した。運動麻痺の少ない失語症者7名を対象に、CADL実用コミュニケーション能力検査（短縮版）、Community Integration Questionnaire (CIQ)日本語版、Craig Hospital Inventory of Environmental Factors (CHIEF)日本語版Ver.2、Stroke and Aphasia Quality of Life Scale-39(SAQOL-39)日本語版、Life stage Aphasia Quality of Life scale-11 (LAQOL-11)、Frenchay Activities Index (FAI)を実施した。参加、IADL、QOLに関しては、対象者間でばらつきが大きかったが、環境因子に関しては、いずれの対象者においても阻害因子は少ない傾向であった。言語機能はQOLと相関傾向を認め、コミュニケーション能力はQOLに加え、参加、環境因子と相関傾向を認めた。QOLには言語機能とコミュニケーション能力が関連するが、参加、環境因子にはコミュニケーション能力の方が主に関連する可能性が示唆された。

A. 研究目的

運動麻痺の少ない失語症者の失語症重症度やコミュニケーション能力とQOLや社会参加の程度を評価し、失語症によってどの程度、コミュニケーションの困難やQOL低下、社会参加が阻害されているかを明らかにする。

B. 研究方法

対象は失語症者とその主たる介護者とした。対象の基準は、失語症者の年齢は20歳～85歳まで、失語症の病因は脳血管障害、頭部外傷、脳炎、代謝性疾患などの非進行性の脳病変によるもの、肢体不自由による身体障害の併存の影響を除外するため、運動麻痺はなし、もしくはあっても軽度なものに限る人とした。介護者は失語症者の家族およびそれ以外の日常生活の様子を最もよく知る人とした。

調査項目として、言語機能の評価にはSLTA総合尺度とボストン失語症診断検査失語症重症度評定尺度(BDAEスケール)、コミュニケーション能力の評価にはCADL実用コミュニケーション能力検査（短縮版）と家族質問紙、知的機能の評価にはレーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)、参加の評価にはCommunity Integration Questionnaire (CIQ)日本語版、IADLの評価にはFrenchay Activities Index (FAI)、QOLの評価にはStroke and Aphasia Quality of Life Scale-39(SAQOL-39)日本語版とLife stage Aphasia Quality of Life scale-11 (LAQOL-11)、環境因子の評価にはCraig Hospital Inventory of Environmental Factors (CHIEF)日本語版Ver.2を用いた。

得られたデータは単純集計を行い、次に失語症者の参加、環境因子、QOLに関わる要因の傾向を明

らかにするためにSLTA総合尺度およびCADL短縮版とCIQ日本語版、CHIEF日本語版Ver.2、SAQOL-39、LAQOL-11、FAIの関連をSpearmanの順位相関係数を算出して検証した。

C. 研究結果

表2にSLTA総合評価尺度、BDAEスケール、CADL短縮版、RCPM、CIQ日本語版、FAI、SAQOL-39日本語版、LAQOL-11、CHIEF日本語版Ver.2の結果を示した。

対象者の失語症重症度は軽度から中等度であったが、知的機能は保たれており、コミュニケーション能力に関しても比較的高い能力を有していた。参加、IADL、QOLに関しては、対象者間でばらつきが大きかった。環境因子に関しては、いずれの対象者においても低値を示す傾向であった。

言語機能の指標であるSLTA総合評価尺度と相関傾向を認めたのは、SAQOL-39日本語版($r=.71$)とLAQOL-11($r=.99$)のみであった。一方、コミュニケーション能力の指標であるCADL短縮版と相関傾向を認めたのは、CIQ日本語版($r=-.36$)、CHIEF日本語版Ver.2($r=.32$)、SAQOL-39日本語版($r=.36$)、LAQOL-11($r=.76$)であった。

D. 結論

QOLには言語機能とコミュニケーション能力が関連するが、参加、環境因子にはコミュニケーション能力の方が主に関連する可能性が示唆された。

研究協力者

小谷 優平、原山 秋、戸田 淳氏、太田 信子、時田 春樹（川崎医療福祉大学リハビリテーション学部言語聴覚療法学科）、宮崎 彰子、植谷 利

英 (川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター)、安居 和輝(ことばの道デイサービス)、水田秀子(藤井会リハビリテーション病院)、松田江美子、伊良波優馬(倉敷中央病院)、杉下周平(高砂市民病院)、守田絵里子(横浜市総合リハビリテーションセンター)、太田千明、小林瑞穂(鶴飼リハビリテーション病院)、森脇元希(聖隷三方原病院)、大野明日香(長尾病院)

E. 健康危険情報 特になし

F. 研究発表

1. 論文発表

・非失語性呼称障害 自験例報告および文献的考察、稲富 雄一郎, 松田 実, 水田 秀子、臨床神経学 61 巻 5 号、288-296(2021. 05)

・高次脳機能障害の言語異常のマネジメント。種村 純、JOHNS37 巻 6 号、630-632(2021. 06)

・フレイルと認知機能との関連、戸田 淳氏, 種村 純地域ケアリング 23 巻 7 号、68-71(2021. 07)

・言語の障害 本が読めなくなってしまった患者(純粋失読)、時田 春樹、Brain Nursing37 巻 6 号、777-781(2021. 11)

・他者接触・他動運動時に異常感覚を伴う左上肢の無意味運動が出現した脳梗塞の 1 例、林田 一輝, 水田 秀子, 近藤 正樹、神経心理学 37 巻 4 号、315-321(2021. 12)

・失語症者向け通所サービス短期的利用の心理社会的側面への有効性 単一被験者の検討、小谷 優平, 種村 純、高次脳機能研究 41 巻 4 号 427-432(2021. 12)、

・脳血管障害後に漢字の書字障害を呈した 3 例の漢字要素構成課題を用いた障害レベルの検討、小割 貴博, 種村 純, 池野 雅裕
川崎医療福祉学会誌 31 巻 2 号、489-495(2022. 02)

・日常記憶検査における展望記憶課題想起の手がかり情報の処理過程に関する検討、太田 信子, 種村 純、高次脳機能研究 42 巻 1 号、106-107(2022. 03)

2. 学会発表

・オンラインを使用した失語症サロンの支援、山田 那々恵, 沖田 啓子, 板倉 香, 岩田 真由美, 木元 美也子, 本多 留美, 三上 裕子, 水戸 裕香, 蓑田 直子, 山下 真樹, 山田 亜紀子, 吉川 浩平, 時田 春樹

・成人大学生におけるピクトグラムの視覚的認知度について、時田 春樹, 福永 真哉, 植松 陽一
言語聴覚研究 18 巻 3 号、237(2021. 09)

・ベーチェット病に起因した脳梗塞で失語症を呈した 1 例、市本 将也, 吉川 浩平, 時田 春樹, 青木 志郎、言語聴覚研究 18 巻 3 号、202(2021. 09)

・退院後に日常生活で顕在化した社会的行動障害

を克服した外傷性脳損傷の一例、太田 信子, 種村 純, 西村 春彦, 花山 耕三、The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine58 巻特別号 2-13-5-8(2021. 05)

・失語症デイサービスから友の会へ移行後も QOL が向上した運動性失語の一例 LAQOL-11(Life stage Aphasia Quality Of Life scale-11)による評価、安居 和輝, 種村 純、言語聴覚研究 18 巻 3 号、194-195(2021. 09)、

・健常者における漢字形態の構造と要素の認知および想起課題成績の分析、小割 貴博, 種村 純, 池野 雅裕、言語聴覚研究 18 巻 3 号、194(2021. 09)

・神経心理機能の側性化異常が疑われた非右利き左半球損傷の 1 例、伊良波 優馬, 松尾 基史, 種村 純、言語聴覚研究 18 巻 3 号、168(2021. 09)

・ロゴペニック型進行性失語症の髄液バイオマーカーと PET 所見の関連、武田 景敏, 水田 秀子, 皆谷 忍, 東山 滋明, 河邊 譲治, 伊藤 義彰、臨床神経学 61 巻 Suppl. S273(2021. 09)、

・失語症状で発症したレビー小体型認知症の一例、武田 景敏, 難波 広人, 皆谷 忍, 水田 秀子, 東山 滋明, 河邊 譲治, 伊藤 義彰、Dementia Japan35 巻 4 号、622(2021. 10)

・高い記憶能力を日常記憶に活用できない右被殻出血例、太田 信子, 種村 純、日本神経心理学会総会プログラム・予稿集 45 回、102(2021. 09)

・左後大脳動脈梗塞により視覚失語、純粋失読を呈した 1 例の症状分析、伊良波 優馬, 種村 純, 松尾 基史, 藤原 稔朗、高次脳機能研究 42 巻 1 号、61-62(2022. 03)

・失語症者向けデイサービスの心理社会側面への有効性 単一症例による予備的検討、小谷 優平, 種村 純、高次脳機能研究 42 巻 1 号、58-59(2022. 03)

・復唱障害を中核症状とする原発性進行性失語を呈した前頭側頭葉変性症診断例、堀川 康平, 水田 秀子, 右近 紳一郎, 内山 侑紀, 道免 和久、高次脳機能研究 42 巻 1 号、79-80(2022. 03)

・左後大脳動脈梗塞により視覚失語、純粋失読を呈した 1 例の症状分析、伊良波 優馬, 種村 純, 松尾 基史, 藤原 稔朗、高次脳機能研究 42 巻 1 号、61-62(2022. 03)

G. 知的財産権の出願・登録情報

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

表1 収集データ、測定アウトカム一覧

No.	上位項目	下位項目	具体的内容
1.	知的機能	Raven' s Color Progressive Materices	知的能力の数値化
2.	言語機能	Boston Dignotic Aphasia Examination Standard Language Test of Aphasia	総合的な言語力の数値化
3.	実用 コミュニケーション	Communication ADL Test -Short Form CADL 家族質問紙	日常のコミュニケーション能力の数値化
4.	日常生活での活動	Frenchay Activity Index	生活行動の程度の数値化
5.	社会参加	Community Intergration Questionnaire	社会参加の範囲の数値化
6.	環境因子	Craig Hospital Inventory of Environmental Factors	阻害因子の数値化
7.	健康関連 QOL	Stroke of Aphasia QOL Test-39 Life stage Aphasia QOL Scale-11	失語症が及ぼす QOL への影響を数値化

表2 測定アウトカムの結果

		n	中央値	四分位偏差
SLTA 総合評価尺度		7	7	1
BDAE スケール		7	3	1
CADL 短縮版	予測得点	7	115	15.45
	コミュニケーションレベル	7	5	0.5
RCPM	合計点	7	35	2.5
CIQ 日本語版	総合得点	7	13	4
FAI	合計点	7	8	7
SAQOL-39 日本語版	総合得点	7	3.44	0.73
LAQOL-11	合計点	7	70	3.5
CHIEF 日本語版 Ver. 2	総合得点	6	0.54	0.72

6. 研究成果の刊行に関する一覧表

(別添5のとおり)

雑誌発表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
稲富 雄一 郎, 松田 実, 水田 秀 子	非失語性呼称障害 自験例報告およ び文献的考察	臨床神経学	61巻5 号	288-29 6	2021
種村 純	高次脳機能障害の 言語異常のマネー ジメント	JOHNS	37巻6 号	630-63 2	2021
戸田 淳 氏, 種村 純	フレイルと認知機 能との関連	地域ケアリング	23巻7 号	68-71	2021
時田 春樹	言語の障害 本が 読めなくなってし まった患者(純粹失 読)	Brain Nursing	37巻6 号	777-78 1	2021
林田 一 輝, 水田 秀 子, 近藤 正 樹	他者接触・他動運動 時に異常感覚を伴 う左上肢の無意味 運動が出現した脳 梗塞の1例	神経心理学	37巻4 号	315-32 1	2021
小谷 優 平, 種村 純	失語症者向け通所 サービス短期的利 用の心理社会的側 面への有効性 単 一被験者の検討	高次脳機能研究	41巻4 号	427-43 2	2021
小割 貴 博, 種村 純, 池野 雅 裕	脳血管障害後に漢 字の書字障害を呈 した3例の漢字要素 構成課題を用いた 障害レベルの検討	川崎医療福祉学 会誌	31巻2 号	489-49 5	2022